

### ③ サステナブル(持続可能な)原料を使った容器包装への取り組み

#### バイオマスプラスチック製容器の使用

容器包装に使われるプラスチックの原料は、ほとんどのものが石油です。石油は地球に残された量がたくさんあるわけではなく、近い将来には使い切ってしまう恐れがある貴重な資源です。使い捨てられる容器包装に、そのような資源を使ってよいのでしょうか。また、石油は化石資源なので産出するときも廃棄するときもCO<sub>2</sub>を排出し、地球温暖化に悪影響を与えます。そうしたことを考えて、ユニーでは2006年より、植物を原料にしたバイオマスプラスチック製容器を使っています。植物は光合成により地球のCO<sub>2</sub>を吸収して育成し、また繰り返し栽培できることから、サステナビリティ(持続可能な)原料です。



#### バイオマスフォーラム in 名古屋

限りのある化石資源(石油や石炭など)と異なりバイオマス資源(生物資源)は、持続可能な資源です。なごや環境大学、高分子学会グリーンケミストリー研究会の協力で、一般消費者にバイオマス資源の活用や植物から製造するバイオマスプラスチックを知ってもらうために、2008年から開催しています。特に石油由来のプラスチックの生産・消費に代わる持続可能なバイオマスプラスチックの活用で、低炭素社会を目指す容器包装の開発・普及を図ります。



#### 三県一市グリーンキャンペーン

2002年より「環境にやさしいお買い物」を推進するために、消費者にグリーン購入を普及するキャンペーンを、愛知県・三重県・岐阜県・名古屋市と一緒に実施しています。「何を買ったらよいのか」「どうやって持ち帰ればよいのか」「使い終わった容器包装はどうしたらよいのか」を買い物で地球環境保全につながるライフスタイルをキャンペーンを通して啓発しました。



#### 今後の課題と展開

バイオマスプラスチックは、植物を原料としたサステナブルな原料です。使い終わった後に廃棄してもCO<sub>2</sub>を増やさず、再生資源としてリサイクルできるので、環境にやさしい容器包装の原料として適しています。

ユニーがバイオマスプラスチックを2006年に初めて青果売り場と卵パックに使用してから4年が経ちましたが、なかなか他の商品や企業に普及していません。しかしこの間、生分解する利点がある反面、熱や湿度に若干変化しやすく使用が限定されていたポリ乳酸(PLA)や石油由来製品と性質が変わらないバイオマスポリエチレンが製品化されてきました。

今後は、従来のプラスチックと同様に使用できるバイオマスポリエチレンを容器包装に使用することで、商品のカーボンフットプリントの数値を抑え、環境にやさしいお買物を推進し、地球温暖化防止や化石燃料の節約につなげていきます。また、容器包装リサイクル法改正に向け、このサステナブルなバイオマスプラスチック製容器包装を「その他プラスチック」から分離し、リサイクル委託料金の見直しも検討してもらいたいと考えています。